

今回の研修で私を支えてくれた本がある。海外に赴いてまで英語が勉強したい、話せるようになりたいといった思いで参加する、または参加を希望する人にとっては愛用する単語帳、英語の読み物を連想させるかもしれない。だが私はそういうものをスーツケースには詰め込まなかった。スペース的ではなく、意図的に。私は放送作家の内村宏幸さんが書いた「ひねり出す力」を持参した。その理由は次の一文がずっと心になじんでしまったからだ。「企画のヒントは半径 5 メートル以内に転がっている。」この言葉に私のタイ研修がすべて言い表される。私なりの解釈では、研修先での迫りくる体験をすごい、驚いたという形容詞で終始するような受け身の姿勢で過ごすのではなく、より積極的・能動的に過ごすことで、自ら成長したい、という思いで研修に意気込んだ。

実際に研修に参加して、現地の研修先で気づいた、気づかされたこととしては、主に下記のことが挙げられる。

- ① 研修先のチェンマイ大学では学生は制服を着用している。
- ② 日本の文化、日本人に関心を持つ人が多いため、有象無象に友達の輪が広がる。
- ③ 英語の発音で苦労した。現地の学生によると、現地の高校ではイギリス英語、大学ではアメリカ英語で学んでいるとのことだった。
- ④ 研修先のスタッフの方も、チェンマイ大学の学生も、責任感を持って首都大生のサポートをしており、現地では軽率な行動は慎むべきである。
- ⑤ 研修先の語学学校の先生やスタッフの方と接することで、国際交流の仕事に関心を持ち、将来の進路や職業観について考えさせられるきっかけとなった。

研修を振り返って、研修への参加を通じて、多くの学びや気づいた点があり、私の価値観や今後の人生にも大きく影響するように思われる。

